

社会教育クローズアップ

放課後活動推進協議会(道東ブロック)を開催しました

10月19日(木)に、十勝総合振興局で、放課後活動を支える人材の資質向上を図ることを目的に、放課後活動推進協議会を開催しました。放課後や休日などにおける子どもの活動拠点づくりに関わる学童保育担当者などを対象に、帯広大谷短期大学の滝澤 真毅教授を講師に迎え、子どもへの活動支援の在り方を含めた専門的な講義や協議を行いました。

講 義「子どもの育ちを支える発達心理学」

放課後活動において、子どもと接する際のポイントを説明していただきました。

愛着の発達については、子どもにとって安心・安全が確保されることが大切であり、そのために「安心して関われる人がいる」と子どもが思えるような関わりをしてほしいとの説明がありました。

また、集団生活のルールづくりのポイントとして、子どもと一緒にルールを決めていくことが挙げられました。また、ルールを守ることができない子どもに対しての関わり方のポイントとして、適切な行動を示し、ルールを守ることができた場合に認めることが挙げられました。

自己主張については、互いの主張を出し合い、交渉しながら主張の方法を学ぶことが重要であるとの説明がありました。



講義をする滝澤教授

参加者の感想

子どもの対人関係をより良くするには「安心感」を感じてもらうことが大切で、その方法も子どもに応じて変わっていくことを再確認することができました。

協 議

講師の滝澤教授より示された事例について協議を行いました。

テーマ1：「児童に安心感を与えられる関わりについて」

協議をとおして、参加者から「子どもの話を傾聴することで不安を取り除いたり、寄り添ったりして安心してもらうことが大切。その積み重ねで信頼関係が築き上げられる」「子ども目線で向き合い、困りごとには、しっかり話を聞くこと、否定せずに聞くことなど、まずは受け入れる対応が必要だと感じた」などの意見が出ました。



グループ協議の様子



協議内容を発表する参加者

テーマ2：「集団生活でのルールやマナーの伝え方について」

協議をとおして、参加者から「支援員の意見を一方的に押し付けるのではなく、子どもたちとの話し合いをとおしてルールを決めることで、守りやすいルールを作ることができる」「一方的に大人の思いだけを伝えてしまうことが多いため、子どもたちの意見も取り入れながら決めていくと、守れるルールを作れるのではないか」などの意見が出ました。

参加者の感想

集団生活をするうえで、ルールを守らなければならないことは必須ですが、ただの押し付けや命令にならないよう伝え方のスキルを身に付けなければと改めて思いました。

【発行・お問合せ先】

北海道教育庁十勝教育局

北海道教育庁十勝教育局教育支援課社会教育指導班(田尾・皆川)
住所：〒080-8588 帯広市東3条南3丁目
電話：(0155) 26-9243(直通) 平日 8:45～17:30
E-mail：minagawa.keita@pref.hokkaido.lg.jp